

第3章 ひこね共創ビジョン

ひこね共創ビジョンのコンセプトは、エリアプラットフォームの彦根市都市再生協議会で検討しました。

彦根市には魅力があり、それはまるで博物館の宝石のようだ。ただし、磨かれていない。

まちの魅力を公共空間を利活用し、まちに棲む賑わい、育み、巡りを創出していける、彦根市の共創を目指していくのが「ひこね共創ビジョン」です。



共創をデザインするビジョン

まちの問題や特徴を踏まえた計画課題とビジョンのねらい

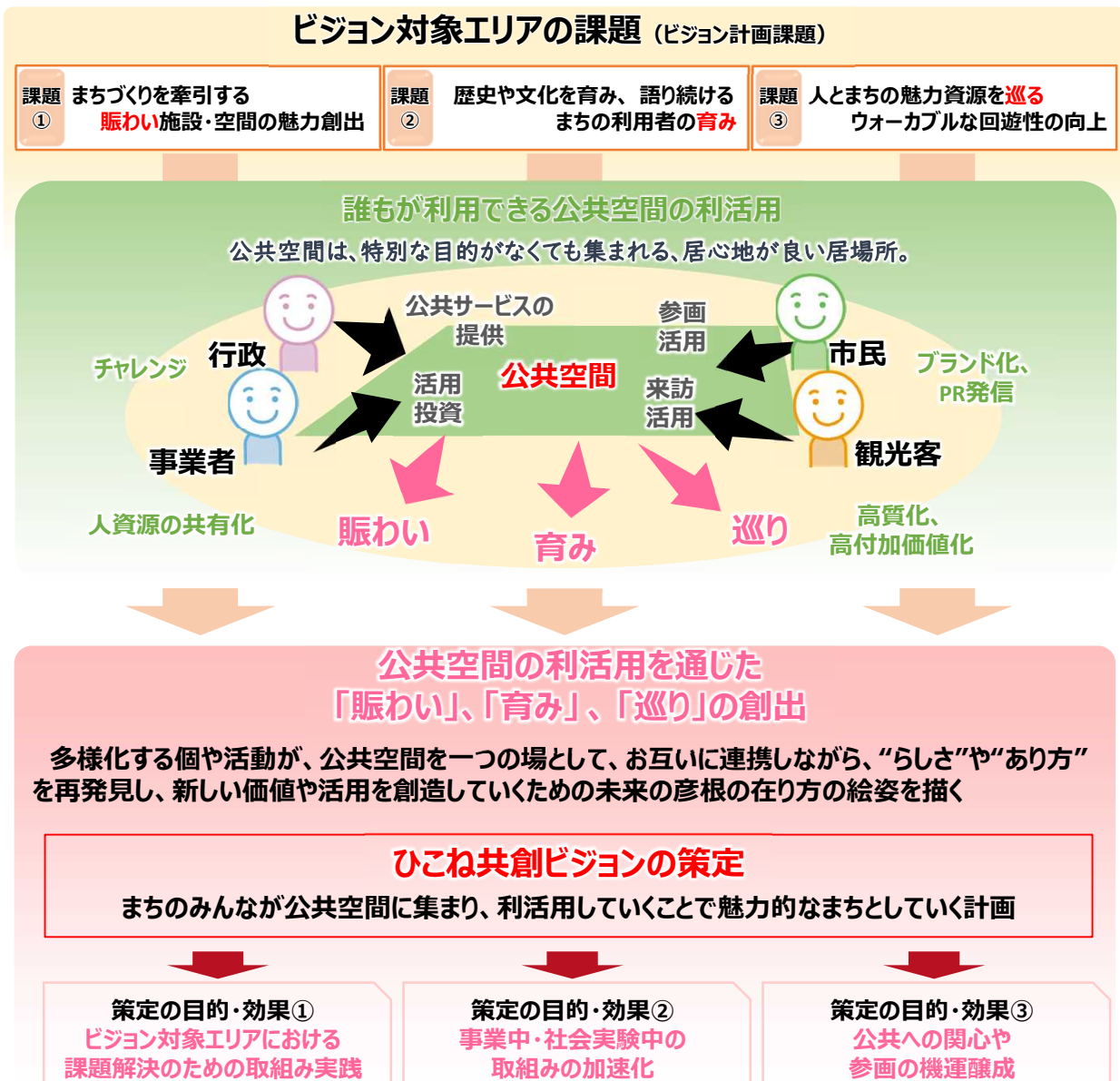
彦根城の世界遺産登録や国民スポーツ大会等の国内外へのアピールの機会に向け、その魅力や歴史的価値を過去から現在、未来の世代に引き継いでいくことが重要です。

一方では、人口減少や高齢化、空家の増加、さらには自動車利用依存や交通渋滞などの問題を抱えており、多様な個や活動が協働や連携していくことが課題解決に必要不可欠となります。

限られる人・資源を共有し、かつ、まちなか全体で高質化・高付加価値化を図るチャレンジを続けることが、課題解決や人を惹きつける魅力につながると考えられます。

ビジョンが描く絵姿は、「彦根らしさ」に向き合っていくために誰もが利用できる公共空間の活用を通じて、賑わい、育み、巡りをみんなで創造していく、彦根市のまちの新しい可能性へ向けてチャレンジしていくものです。

ビジョン対象エリアの課題と公共空間の利活用を通じたビジョンの実現の考え方





ビジョンのコンセプト

公共空間の利活用を通じた「賑わい」「育み」「巡り」の共創を目指す 彦根市の未来

彦根市の未来 (ビジョンが目指すまちの姿)

彦根市は、昔から「まち全体が博物館のようだ」と形容されるほど、彦根城をはじめとして、まちそのものが、過去から現在へと引き継がれ、未来の世代に引き継いでいくべき、かけがえのない宝物です。

一方で、彦根市のまちなかは、人のにおい、息吹、面影を感じることができにくく、閑散としていて、ちょっぴり物足りない印象です。歴史から受け継ぐ彦根のまちなみは、「賑わい」と「育み」と「巡り」に溢れ、人が居心地の良い、歩きやすいまちなかを望んでいます。

まちなかの公共空間は、特別な目的がなくても集まれるのが公共空間の良さです。

これからの彦根市は、市民、事業者、観光客、そして行政が、特別な目的がなくても集まれるという公共空間の良さと向き合い、「賑わい」と「育み」と「巡り」と共に、未来が歴史に彩られる時間を過ごして、「共創」の未来を指向します。





ひこね共創ビジョンの基本方針

公共空間でつなぐ「賑わい」、「育み」、「巡り」の共創、計画の基本方針

彦根市の公共空間の良さを活かした「賑わい」「育み」「巡り」の共創は、まちへひとを集めるきっかけづくりから始まり、集まった人が健やかな関係を築きながら、まちの魅力を存分に楽しむ回遊の共創を目指します。

彦根の未来（目指すまちの姿）の計画とは

『賑わい』『育み』『巡り』の共創 ひこね共創ビジョンの共創の取組方針

様々な立場や価値観を持った人達が集まり、多様な利活用や活動を協働し、共に新たな価値を創造していきます。同じ場所で同じ時間を過ごす、また同じ場所で違う時間を過ごすなかで、それぞれの「ひこね」らしさの思いをもって、魅力を再発見して磨いたり、新しい価値を話し合ったりするなど、まちを健やかに存分に楽しめるきっかけづくりを推進していきます。

『賑わい』 まちに人が集まるきっかけを共創

人が公共空間の良さに気づき、まちへ出掛け、集まり、活動していくきっかけの共創を目指していきます。



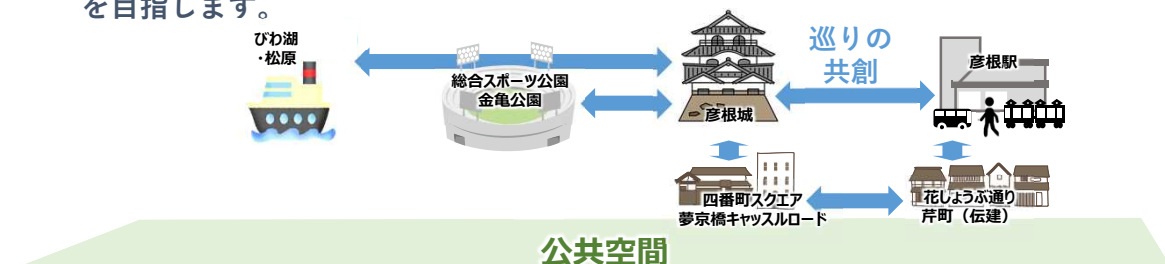
『育み』 まちで健やかな関係を共創

観光客、行政、市民、事業者が、年齢や立場など関係なく、健やかな関係を築く共創を目指します。



『巡り』 まちの魅力を楽しむ回遊を共創

人がまちの魅力を歩いて回遊していくことで、まちを存分に楽しめる共創を目指します。





共創を導く 駅前お城通りの在り方

駅前お城通りはまちの中心、共創のショーケースとして魅せる

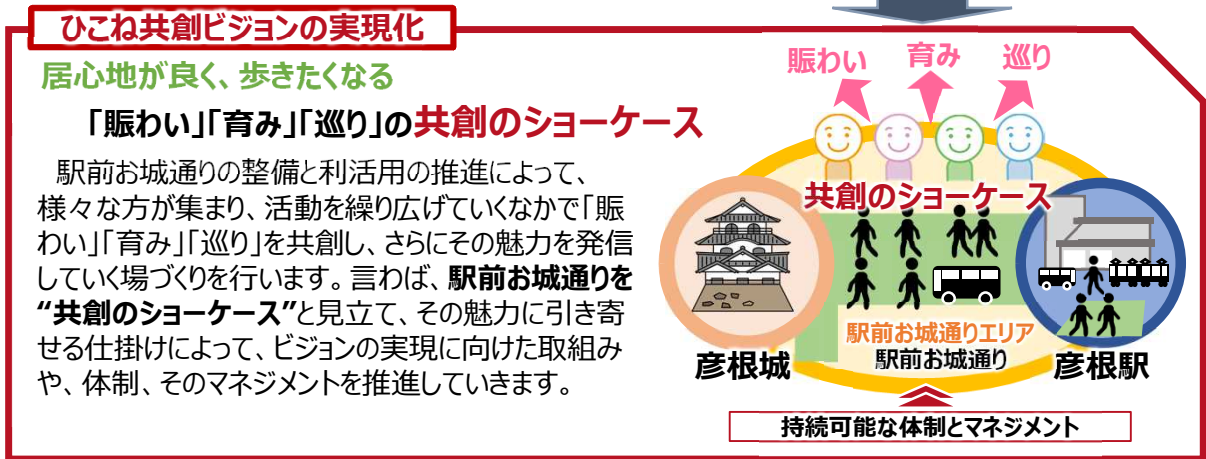
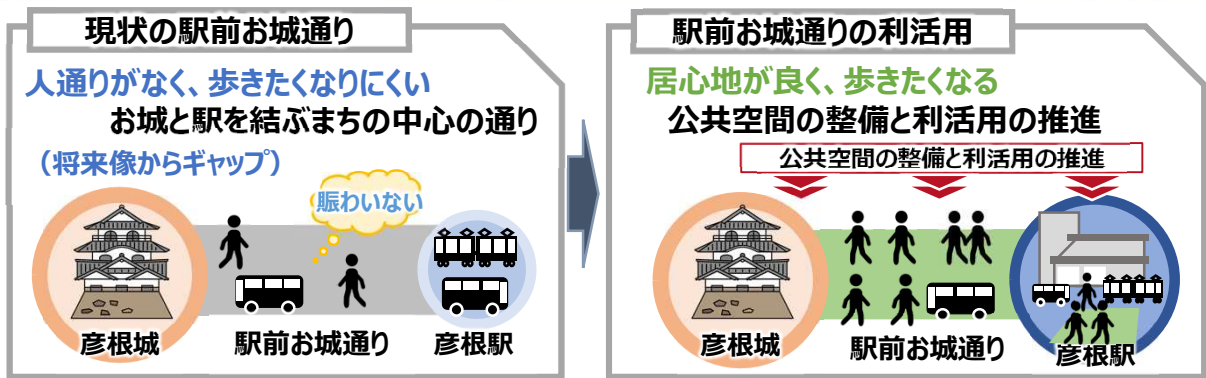
ビジョンでは、彦根城と彦根駅を結び、市民や観光客が行き交うまちの中心である駅前お城通りの在り方に着目しました。

現状の駅前お城通りは、閑散としていて賑わいを感じにくく、ビジョンに掲げる特別な目的がなくても集まれるような「賑わい」「育み」「巡り」の共創の場ではありません。

そこで、駅前お城通りの中心に公共空間の整備と利活用を推進し、共創の魅力に引き寄せられるショーケースに見立て、ビジョンの実現を目指すものとししました。

また、ビジョンでは、駅前お城通りエリアを舞台に、世界遺産登録の緩衝地帯の回遊性や高質化に向けた役割を果たすような計画とします。

駅前お城通りをショーケースに見立てた共創の導き方 ～ビジョンの実現と世界遺産に向けて～





駅前お城通りから導く共創のデザイン

共創のショーケース、ゲートウェイ、スポット、巡りの動線

ビジョンでは、“共創のショーケース”に見立てた彦根城と彦根駅を結ぶ駅前お城通りを中心に、その東西の両端を“共創のゲートウェイ”、“共創のスポット”として、まちに人が集まり、健やかな関係を築く共創をデザインします。

また、駅前お城通りからの回遊や巡りについては、歩行者が歩きやすい動線、観光客やそのための観光バス（P&BR）の動線をデザインしていくことにより、まちなかの体系の整序化を図ります。

駅前お城通りを中心とする共創のデザイン ～エリアの軸構造や動線の体系図～



地図出典：Copyright(c) N T T 空間情報All Rights Reserved

【凡例】

